山梨県韮崎市

Naeshikisansanchou Site

苗敷山山頂遺跡

林道開発に伴う緊急発掘調査報告書

2003

韮崎市教育委員会

山梨県韮崎市

Naeshikisansanchou Site

苗敷山山頂遺跡

林道開発に伴う緊急発掘調査報告書

2003

韮崎市教育委員会

序　　文

韮崎市内には200遺跡を越す埋蔵文化財包蔵地が現在確認されています。苗敷山山頂遺跡もその一つであります。標高千メートルを超える場所にあり、これまであまり知られていなかった遺跡といえます。しかしながら、今回の発掘調査により古代の山林信仰の一端を指し示す資料が発見されました。

当地域の歴史の紐解きに本書がお役に立つことを願い、今回の調査に甚大なるご理解とご協力をいただきました地元の皆様方へこの場を借りてお礼を申し上げる次第であります。

平成15年３月28日

韮崎市教育委員会

教育長　輿　石　　薫

例　　言

1　本書は、山梨県韮崎市旭町上条南割字三次山番地外に所在する苗敷山山頂遺跡の旭山林道建設に伴う事後発掘調査報告書である。
2　本発掘調査を平成13年8月に実施した。平成14年度に整理作業を実施し３月末日に事業を終了した。
3　本書の執筆・編集は閏間俊明がおこなった。
4　写真測量は株式会社フジテクノに委託し実施した。
5　発掘調査ならびに報告書作成にあたり、多くの方々からご指導・ご協力・ご鞭撻を頂いた。厚くお礼を申し上げる次第である。
6　発掘調査・整理業務により出土並びに作成された遺物及び資料等は、韮崎市教育委員会が保管している。

調　査　組　織

1　調査主体　韮崎市教育委員会教育課生涯学習推進室
　　教育長　　輿石　薫
　　課　長　　新藤　稔
　　室　長　　長野栄太
　　リーダー　山下孝司（学術文化財係）
　　主　事　　閏間俊明（　　〃　　）
　　非常勤　　秋山圭子（　　〃　　）
2　調査担当　閏間俊明
3　調査参加者　阿部由美子・阿部純一・木内純子・小野初美

凡　　例

1　遺構・遺物の縮尺は各図に示したとおりである。

目　次

序　　文言
例　　織
調　査　組　例
凡　　次
目　　次

第１章　調査経過 …… 1

第２章　遺跡の環境 …… 1
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境

第３章　遺構と遺物 …… 2
　第１節　遺　　構
　第２節　遺　　物

まとめ …… 3

第１章　調査経過

旭山（苗敷山）に所在する穂見神社の周辺に古代から近世にかけての遺物が大量に出土することは以前から知られていた。標高約1000ｍの高所ということや、古くから信仰の山として地元で扱われてきたために開発などもなく、遺跡は良好に保存されてきた。また、開発行為自体が少ないことから遺跡の範囲等の把握がこれまで正確に行われてこなかった。このような経過の中で、林道建設により山中の一部が掘削され、廃土から大量の土師器などが出土しているという報告が、山の踏査をしていたグループから韮崎市教育委員会にあった。現地を確認し、山頂部の西側の遺物集中地点を中心に土層断面観察を中心に調査を実施した。

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

苗敷山山頂遺跡は、南アルプスに端を発する釜無川（富士川）の支流、御勅使川左岸の旭山（標高1037m）の山頂部に広がる。旭山は苗敷山とも呼ばれ、鳳凰三山（地蔵ケ岳・観音岳・薬師岳）の前衛の山として存在している。

奥にそびえる鳳凰三山は宗教色が濃く、特に地蔵ヶ岳のオベリスクは象徴的である。標高2764mの山頂付近の岩肌には縦に亀裂が入り、さらに上部は風雨によりくびれて丸みを帯びており、その様子をオベリスクを中心に集合する地蔵と比喩されることもある。鞍部は賽の河原と呼ばれ、白色の砂地が広がり、現在子授かり信仰として地蔵が数多く奉納されている。中世以前の大日如来を刻む懸仏一面や古銭一四枚（開元通宝・皇宋通宝・永楽通宝など）などが山頂付近から発見されている（『韮崎市史』）ことから、奈良時代から平安時代にかけて開山されたものであろう。薬師岳や観音岳にも地蔵ケ岳に類似した景観があり同様に信仰の対象であったと考えられる。

鳳凰三山と釜無川の間の標高1000m付近に、池平（いけんてーら）、鷹ノ田（たかんた）やさわら池などの平坦地が複数存在する（第３図）。いずれも沼地をもつ高層湿原である。高層湿原は苗場山、田代岳、白馬岳の「神の田圃」、乗鞍岳の「精霊田」、御岳の「田ノ原」や立山の「餓鬼田」などに代表されるように、石祠や鳥居などが設けられ、聖地として扱われる傾向がある（金井1977）。苗敷山において高層湿原は確認されていないが、豊富な湧水地の存在は、湿原的な意味合いを持つことを示している。

第２節　歴史的環境

旭山（苗敷山）の眼下に広がる御勅使川扇状地およびその周辺は、古代に甘利庄が所在した地域として捉えられている。韮崎市側では発掘調査例はないが、分布調査では平安時代の遺跡が数箇所で確認されている。御勅使川を挟み南側の旧白根町や旧八田村では古代の遺跡が数多く発掘されている。大塚遺跡で奈良から平安時代の住居跡33軒、石橋北屋敷遺跡で奈良から中世の住居跡17軒・掘立柱建物跡７基、立石北遺跡で平安時代の住居跡13軒・掘立柱建物跡５基や百々遺跡で平安時代の住居跡80軒・掘立柱建物跡３基が調査されている。また、白根町大嵐に所在する善応寺の裏山の経塚からは、土製経筒・鉄鏃・短刀などが出土している。

このように苗敷山の周辺では、古代の遺跡が数多く確認されている。さらに、伝承も数多く残る。『甲斐国志』巻之六十六神社部第十二の項には「上古国建神南山ヲ決鑿シテ湖水ヲ乾シ　中郡平地トナリシ時山代王子稲苗ヲ敷施シテ民ニ稼穡ノ道ヲ教ユ是ヲ以テ州中ノ人今ニ会式ノ日早穂ヲ献ズ古名ヲ穂見神社ト称ス」とあり、巻之八十四仏寺部第十二の項には「鳳凰山ノ南下ニ仙窟アリ神在丘ト云六度仙人ト云者住メリ蹴裂明神ト力ヲ戮セ南山ヲ鑿リ洪水ヲ漏シ播殖ノ地ヲ開キ悪竜毒鱗ヲ駆テ五穀ノ種ヲ施セリ故ニ苗敷ト号ス」というように記録されている。甲府盆地が湖であったのを仙人と神が水を流して農耕可能にさせたことに感謝して穂見神社で祭典が執られるようになったことを伝えている。六度仙人は山岳宗教との結びつきが強く山岳信仰の対象として苗敷山が存在していたことを伝える伝承の一つである。

第３章　遺構と遺物

第１節　遺構

調査区斜面上方と下方からそれぞれ、２軒及び４軒の竪穴住居跡を確認した。便宜的にそれぞれ斜面上方竪穴住居跡群と斜面下方竪穴住居跡群と呼び報告をおこなう。

斜面下方竪穴住居跡群（第４・５図）

１号、３号、４号及び５号竪穴住居跡が重複している。林道法面を精査中に暗褐色土の落ち込み及び遺物の集中により確認し、重複はなく１軒のものとして調査を進めた経緯がある。幅約1.5ｍの調査であることから新旧関係が不明確なものもあるが、確認順序及び土層断面の観察から１号→４号→３号→５号の順番で構築されたものと考えられる。

１号竪穴住居跡

東壁（斜面上方）の立ち上がりは明瞭であるが、西壁は土層断面によっても明確には判断し得なかった。

東壁から中央に向かい５ｍ程度までは貼床を確認できたが、その西側では脆弱なため不明である。貼床の確認ができなくなる付近では炭化物と焼土の堆積と共に大型の礫が出土した。

東側の壁際から上層にかけてやや大型の礫が流れ込んだ状況で出土し、土師器を中心に遺物の出土が多い。遺物出土状況は第４図のとおりである。西側の遺物は１号住居跡の平面規模が不明なため断定できないが、東側で確認された床面とほぼ同レベルであることから１号竪穴住居跡遺物として扱うこととする。

東壁付近には不連続な周溝および１号住SD１とした土坑が検出された。１号住SD１は南北を長軸とする楕円形であり、南側に被熱痕跡が認められた。土坑上面は前述した大型の礫が流れ込んだ状況で確認された部分と重複することから、１号竪穴住居のカマドの可能性もある。

３号竪穴住居跡

５号竪穴住居跡の床面よりもやや高い面で確認した。南東隅を検出した状況である。遺物の出土はない。

４号竪穴住居跡

１号竪穴住居跡の床面掘り下げ中に確認した。南東隅を検出した状況である。カマドの位置は南東隅である。東壁には周溝があるが、西側には存在しなかった。遺物の出土量は１号住に次いで多く、やや古い傾向がある。ただし、いずれの住居跡も規模に曖昧な点があり、混在している可能性もある。

カマドは不整な円形形態で底面はやや凹凸がある。

５号竪穴住居跡

最終段階で確認した住居跡である。南壁全体を確認しており、2.2ｍの長さである。竪穴内中央から南東隅にかけて炭化物や焼土を含む白色粘土の広がりを検出している。

斜面上方竪穴住居跡群（第６・７図）

２号及び６号竪穴住居跡が重複している。２号竪穴住居跡は林道法面精査中に暗褐色土の落ち込み及び遺物の集中により確認した。６号竪穴住居跡は２号竪穴住居跡の床面を掘削した段階で確認できたものである。このことから、６号→２号の順に構築されたことを確認した。

２号竪穴住居跡

東壁（斜面上方）の立ち上がりは明確であり、床面に対してやや斜め（約60度）である。西壁の立ち上がりは不明瞭であるが、東西約６ｍの方形の平面形態であったと考えられる。床面は２面あり、確認した順序で第１床面と第２床面とした。

第１床面：東壁から約180cmの幅でベット状遺構を確認した。途中で一段下がる二段式である。上面は非常に堅く緻密である。

第２床面：第１床面を掘り下げた際に確認した新たなベット状遺構を持つ床面である。ベット状遺構は東壁から約110cmの幅で、第1床面のものと比較してやや幅が狭い。

第２床面を掘り下げ後に精査したところ、カマドと考えられる焼土および灰白色粘土を伴う土坑を確認した。第２床面を掘り下げ後に平面形態が確認できたことから、第２床面構築以前に使用されたカマドと考えられる。２号住SD２とした土坑も同じく、第２床面構築以前の所産であることを土壌堆積状況から確認している。

その他のピットや土坑は床面が脆弱な部分であったこともあり、どの段階の所産であるか明確にしえなかった。

６号竪穴住居跡

２号竪穴住居跡調査後に南東隅部分の平面プランを確認した。床面は２号竪穴住居跡構築時に壊されているか、脆弱なため確認し得なかった。この住居跡に伴う遺物は出土していない。

第２節　遺物

竪穴住居跡内を中心に遺物の破片がテン箱に２箱分出土した。第１節で説明したように、斜面下方竪穴住居跡群は調査の経過と共に４軒の竪穴住居の重複であることを確認したことから、遺物の所属が厳密でないことをご容赦願いたい。

観察所見は観察表に譲り、以下に傾向を示す。

・土師器皿、坏に灯明皿として用いられた痕跡の認められるものが多い。第９図２住６は端にススが帯状に巡る。第12図４住27は芯が束ねられて器の端にあったことが明確である。

・器種組成が坏、皿、土師器甕、須恵器甕、羽釜、灰釉陶器や鉄製品であり、平地に見られる一般的な集落跡内の組成と変わらない。これは、比高差600m（標高1000m）の本遺跡でも、遺物から見れば通常の生活が営まれていたことになる。

・１号竪穴住居跡出土の土師器は体部が直線的に開くものが多く、玉縁状口縁部を持つものは皆無である。また、胎土に金色雲母を大量に含む。このようなことから、11世紀前半の所産と考えられる。

・２号竪穴住居跡出土の土師器は、体部はロクロ回転ナデ調整で玉縁状口縁部を持つものが多いことから、10世紀後半の所産と考えられる。２住－26は緑釉陶器である。２住－31は内底部および外底部に研磨痕が見られ転用硯である。２住－32は大型の平瓶の把手部である。

・４号竪穴住居跡出土の土師器は体部下半にヘラ削り調整がされている個体や内面に暗文状のミガキのある個体がやや多い。以上のような技法の用いられない個体もあることから10世紀前半から後半に位置付けられる。

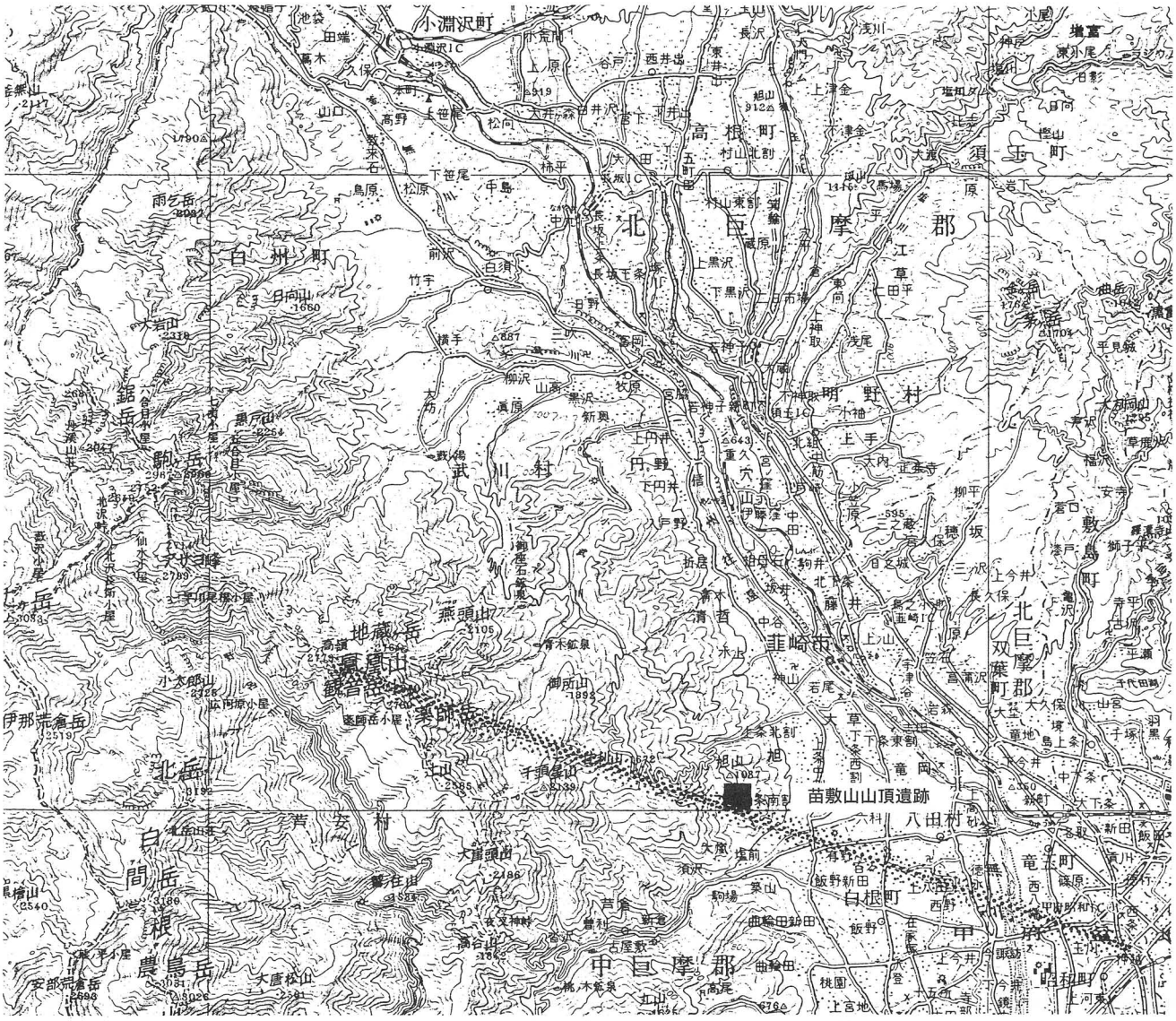
・３号竪穴住居跡からは鉄製品が３点出土しているが、３住Ｆ３は中実の鉄球であり、表面に突起物のようなものがつく。Ｆ４は直方体状のものであり、釘ではない。Ｆ５は両端が尖っており、頭のある釘とは異なる。いずれの資料も製品名が不明であるが、他遺跡では確認されていない資料といえる。

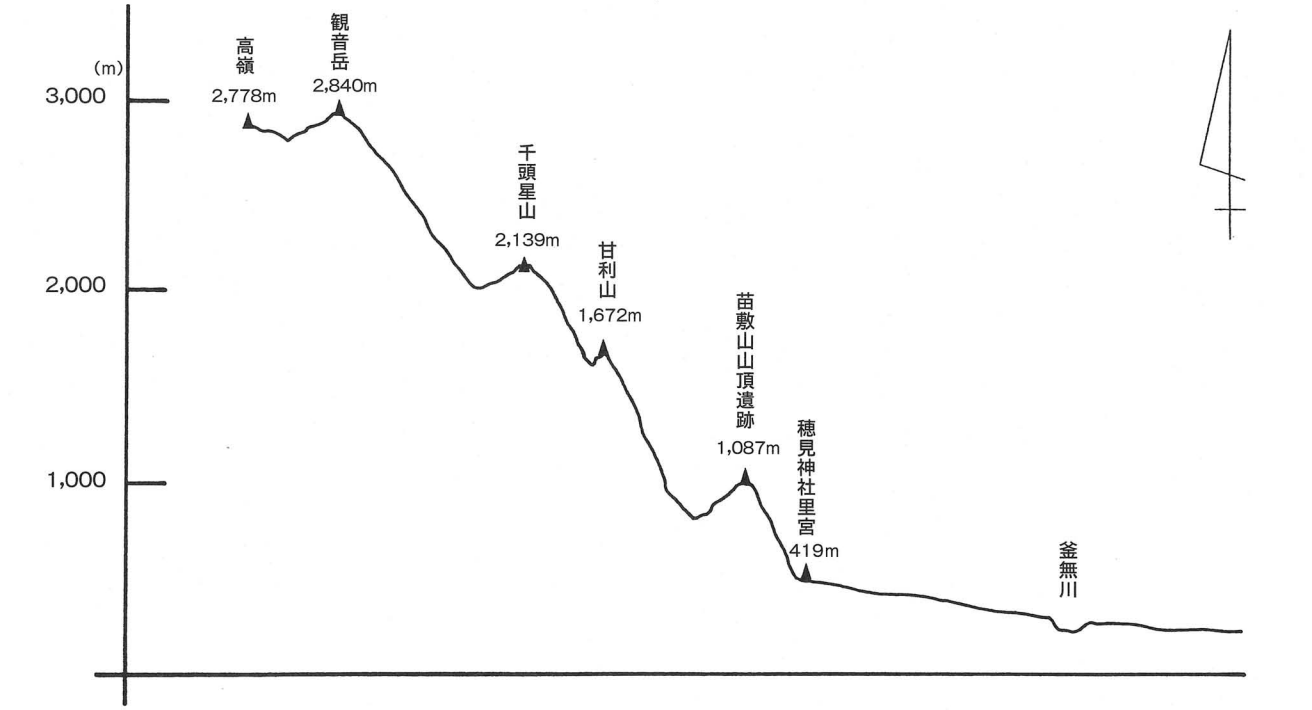
・今回の調査地点では近世の遺物はまったく出土していない。これは苗敷山東斜面（本調査区と山頂を挟み反対側）で近世陶磁器が大量に出土することと大きな違いである。狭小な調査面積であるが、今回の調査区を含む西斜面では近世に遺物を残すような人間活動がおこなわれていなかったことを間接的に示すものといえる。

ま　と　め

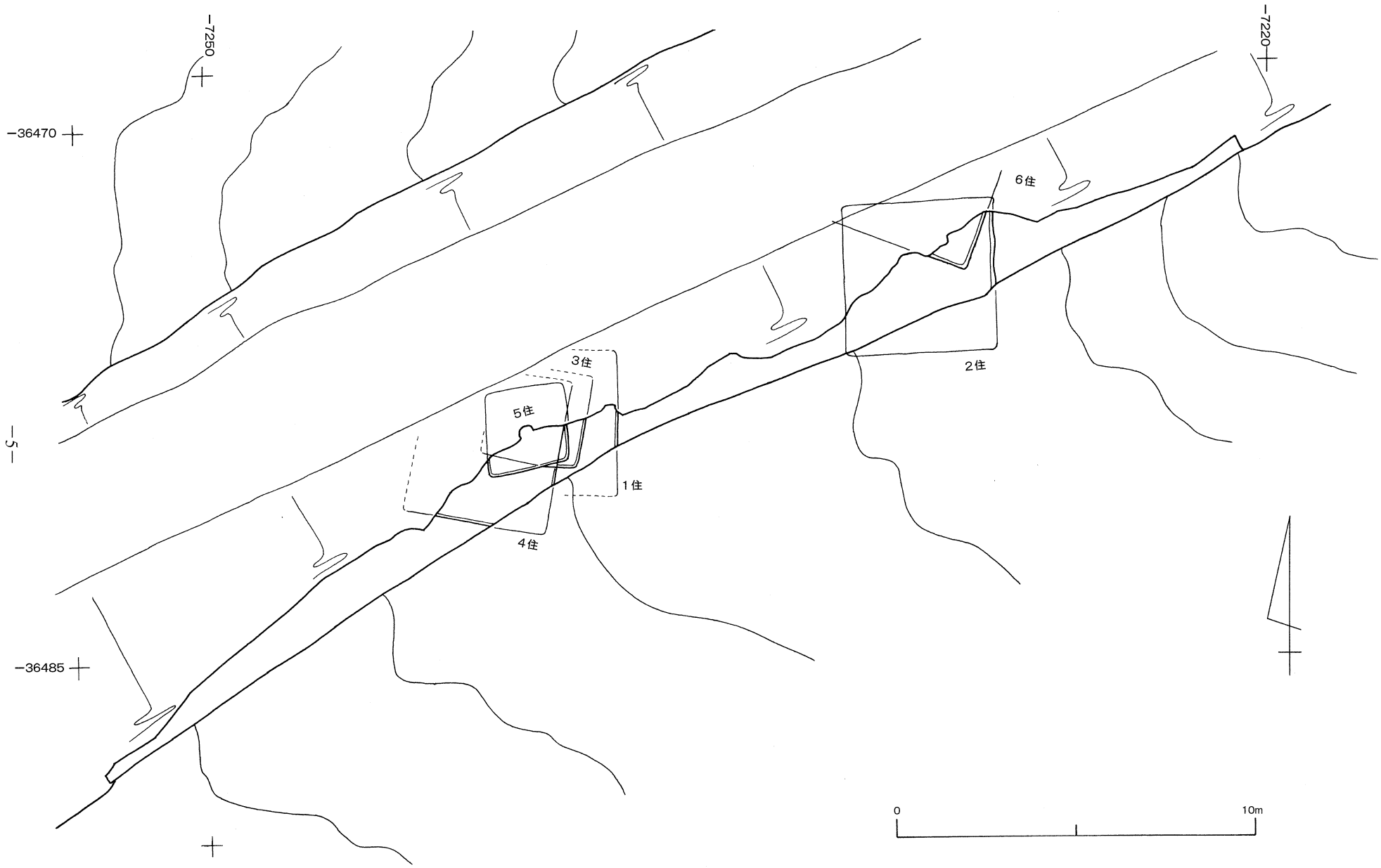
以前から遺存状況の良好な山林寺院跡として知られていた苗敷山山頂遺跡に初めて発掘調査を実施したことになる。平地にある一般的な集落と類似性の強い竪穴住居構造や遺物組成を持ちながらも、灯明皿として使用した痕跡を持つ坏が多いことや坏の器形において特異なものがあるなど違いのあることも事実である。遺跡の立地条件等も含めて、一般的な集落とは異なる意義を持つ信仰の場としての遺跡と位置づけられると考えられる。

甲斐国では仏教的施設が集落内から消滅する９世紀から11世紀にかけて甲府盆地を見渡すことの可能な山間部に仏教的施設が建立されることが指摘されている（櫛原功一1992「平安時代の寺院址」『山梨県考古学会誌』第５号）。一般的な集落内の仏教的施設は主に掘立柱建物跡として捉えられているが、隣接して仏教的遺物が伴う竪穴住居跡が確認されている遺跡があることも事実であり、韮崎市においては宮ノ前第２遺跡（山下孝司1991『宮ノ前第2遺跡・北堂地遺跡』韮崎市教育委員会）や半縄田遺跡（山下孝司1995『半縄田遺跡』韮崎市教育委員会）を挙げることができる。このことから仏教的施設が掘立柱建物と竪穴住居のセットとなる可能性はある。苗敷山山頂遺跡では掘立柱建物跡は現在のところ確認されていないが、セットが成り立つのであれば、確認された竪穴住居跡は仏教的施設として存在していたと考えられる。





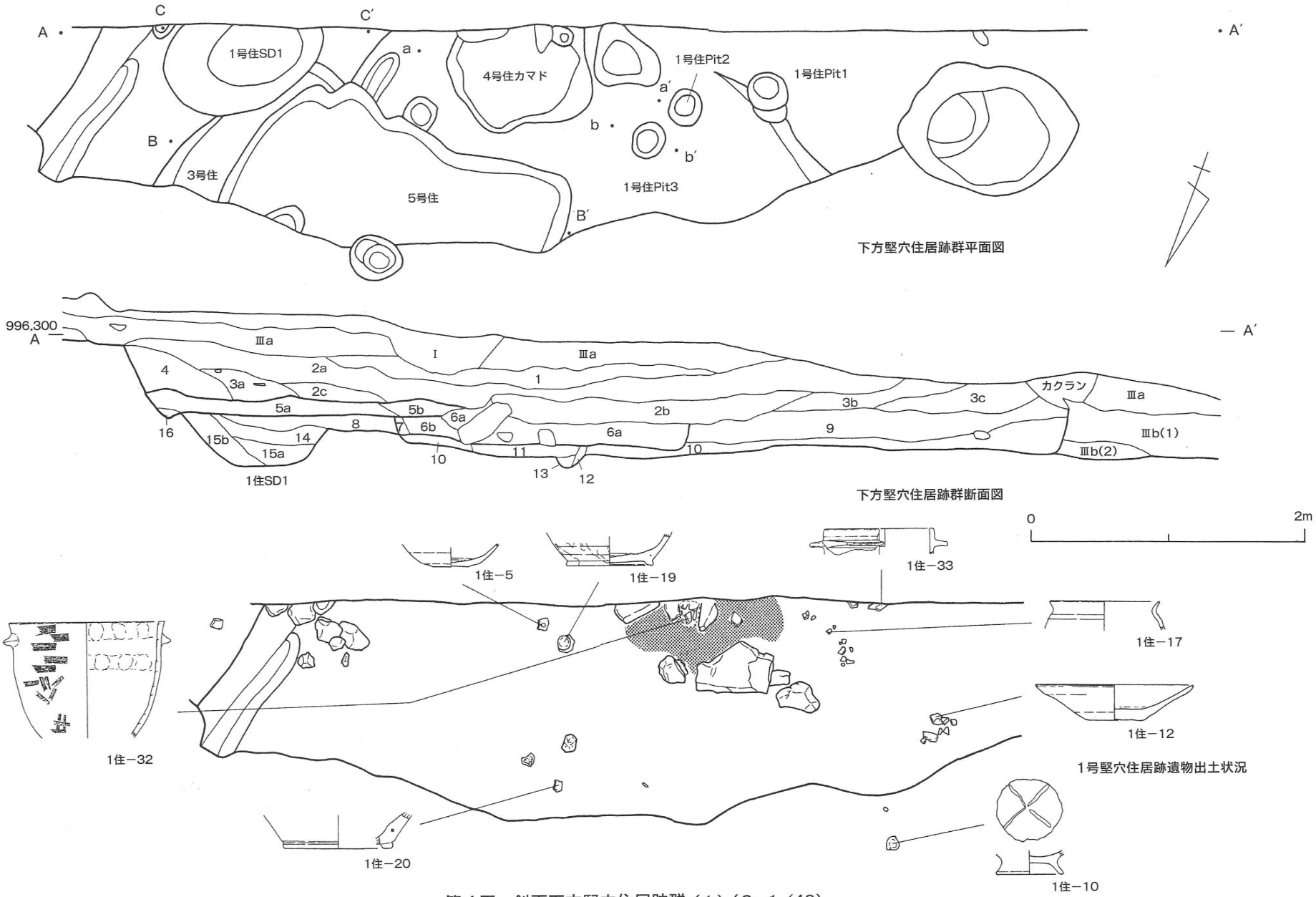
第１図　苗敷山山頂遺跡位置図（S=1／200,000）



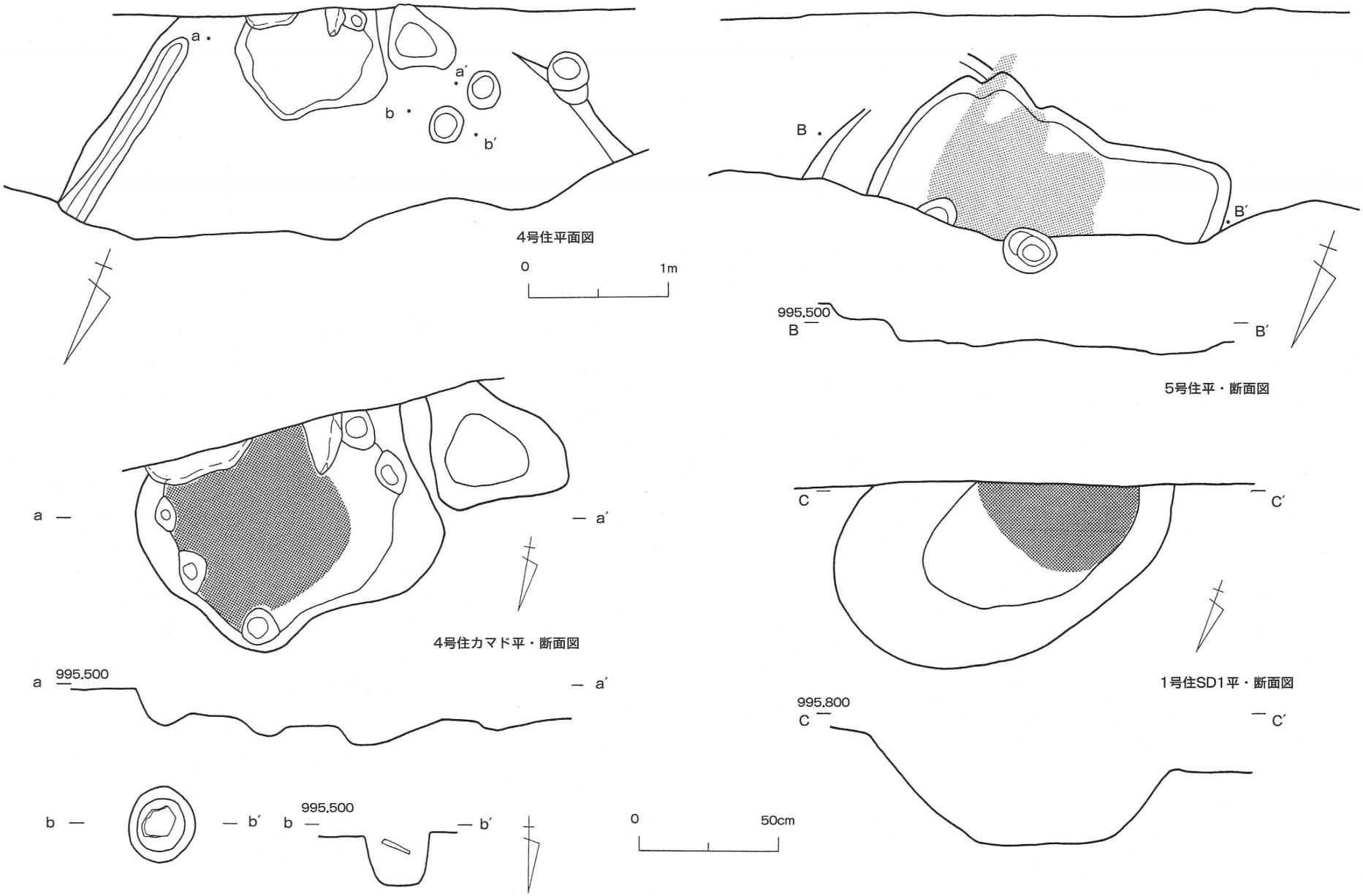
第２図　苗敷山山頂遺跡遺構配置図（S=1／150）

1 苗敷山山頂遺跡
2 さわら池
3 池平(いけんてーら)
4 鷹ノ田(たかんた)
5 能見城防塁跡
6 新府城跡
7 白山城跡
8 白山城跡(北烽火台)
9 白山城跡(ムク台)
10 扇子平
11 城源院
12 宝蔵寺
13 雨宮寺
14 常光寺
15 興福院
16 泉勝院
17 定角寺跡
18 願成寺
19 大慈寺
20 正福寺
21 永明院
22 大輪寺
23 大公寺
24 福寿院
25 浄蓮寺
26 昌善寺
27 善応寺
28 蓮行寺
29 行善寺
30 了円寺
31 福王寺
32 昌福寺
33 松雲寺
34 光臺寺
35 恩昌寺
36 極楽寺
37 光明寺
38 延命寺
39 慈法院
40 見徳寺
41 三光寺
42 八幡神社
43 原山神社
44 諏訪神社
45 御杉神社
46 金山明神
47 広神社
48 武田八幡神社
49 白山神社
50 山之神神社
51 八幡宮
52 苗敷山穂見神社里宮
53 苗敷山穂見神社山宮
54 観音堂(善応寺)
55 諏方明神
56 水宮神社
57 神明社
58 七面山寿量院稲荷
59 穂見神社
60 観音堂
61 御牧神社
62 藤武神社
63 神明宮
64 尾鰭宮当麻戸神社
65 天王社
66 安昌寺
67 蓬田遺跡
68 中田小学校遺跡
69 金山遺跡
70 前田遺跡
71 立石遺跡
72 下木戸第２遺跡
73 宮ノ前第２遺跡
74 宮ノ前第５遺跡
75 宮ノ前遺跡
76 宮ノ前第３遺跡
77 宮ノ前第４遺跡
78 堂の前遺跡
79 坂井堂ノ前遺跡
80 後田堂ノ前遺跡
81 三宮地遺跡
82 新田遺跡
83 城前寺
84 近戸神社
85 普齋禅寺
86 金毘羅大権現
87 御崎神社
88 為朝神社
89 諏訪神社(大嵐)

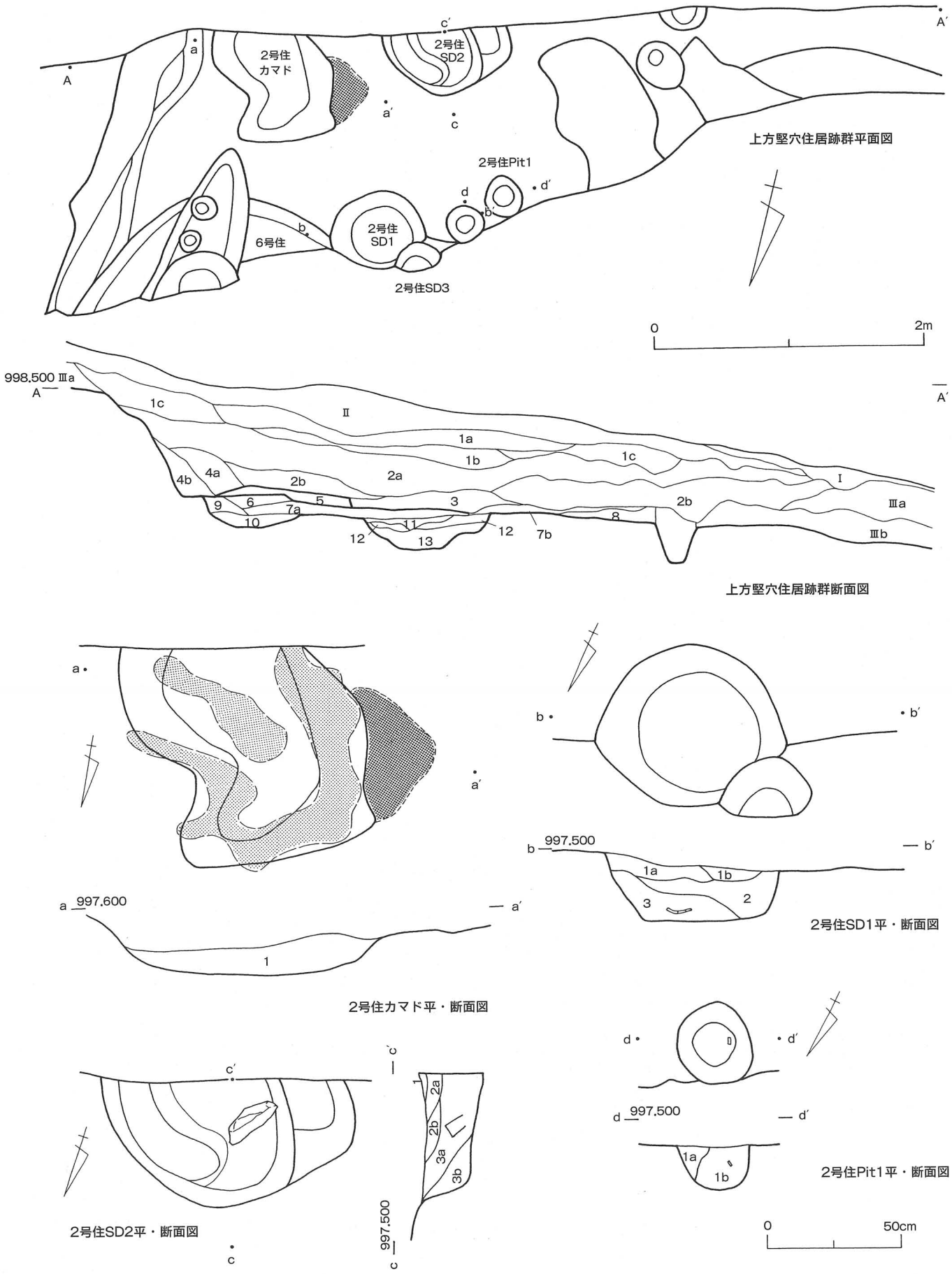
第３図　苗敷山山頂遺跡とその周辺（S=1／50,000）



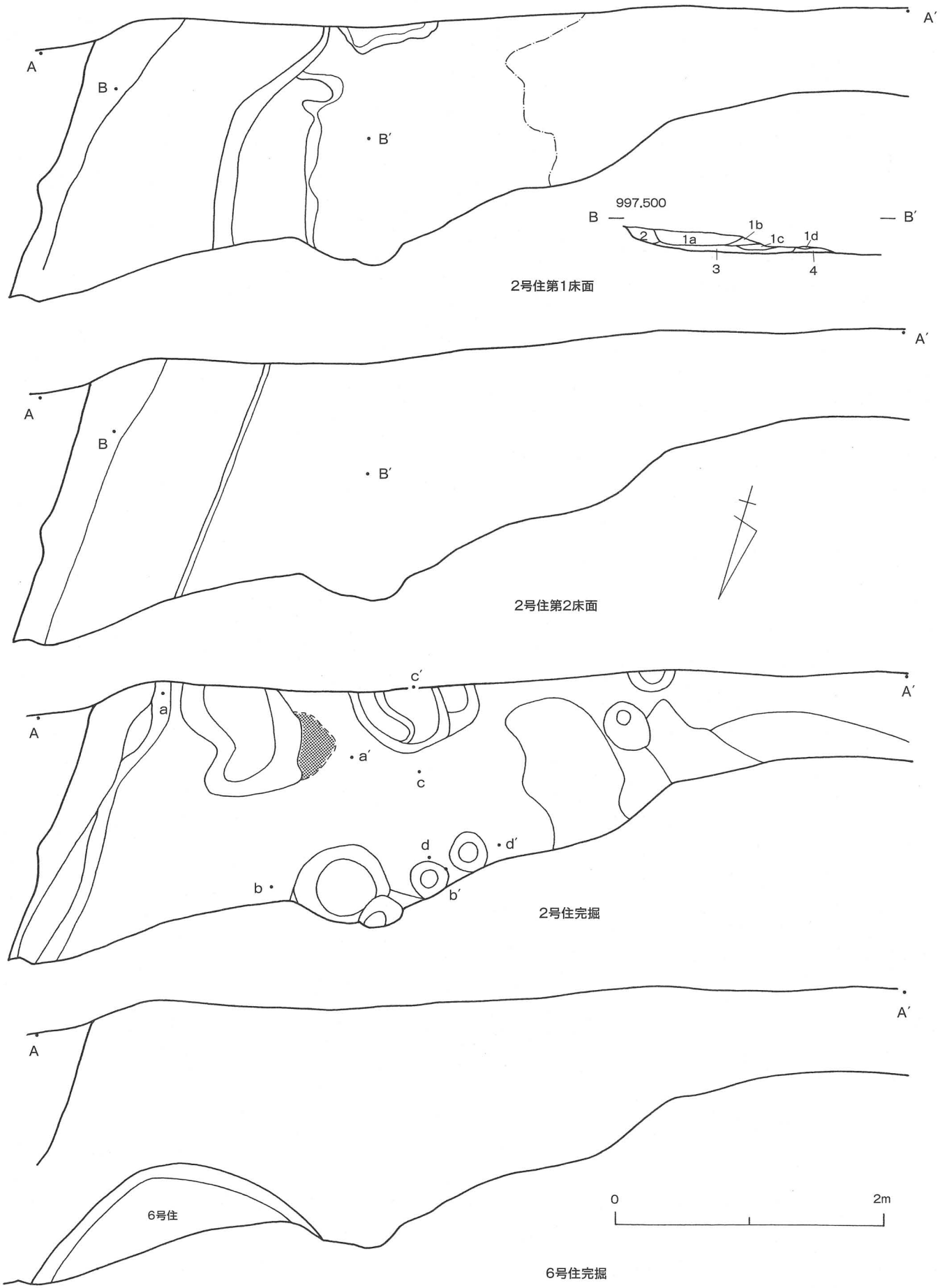
第４図　斜面下方堅穴住居跡群（１）（S=1／40）



第５図　斜面下方竪穴住居跡群（２）（S=1／20・1／40）



第６図　斜面上方堅穴住居跡群（１）（S＝1／20・1／40）



第７図　斜面上方竪穴住居跡群（２）（S＝1／40）

Ⅰ	撹乱土
Ⅱ	表土
Ⅲa	暗黒灰色土
Ⅲb	Ⅲaより色調明
Ⅳ	ソフトローム層土

斜面上方竪穴住居跡（第６図・Ａライン）

上　層	1a	暗黒褐色土	Ⅲa層主体　径１～２mm LR・FRやや微　黒色土を主体とする
	1b	暗茶褐色土	Ⅲa層主体　径１～２mm LR・FRやや微　黒色土を少なく混合
	1c	暗茶褐色土	Ⅲa層主体　径１～２mm LR・FRやや微　黒色土をやや多く混合
中　層	2a	暗褐色土	Ⅲb層主体　径１～２mm FRやや少　径３～５mmCやや少
	2b	暗褐色土	２a層に類似するがしまり強
下　層	3	暗褐色土	径１mm　FR・C多　Ⅲb層と、Ⅳ層の混合
壁　際	4a	暗褐色土	Ⅳ層主体　径３～５mm　LBやや少
	4b	暗黄褐色土	Ⅳ層主体　ローム主体　径３～５mm　LBやや多
ベット１	5	暗褐色土	Ⅳ層主体　径２～３mm　FR少　径10mm　白色砂ブロックやや少　しまり強
ベット２	6	明黄褐色土	Ⅳ層主体　径５～20mm　LB多　しまり極めて強
貼　床	7a	暗褐色土	Ⅳ層主体　炭化物層と焼土層と白色砂層と暗褐色土が層状に堆積
	7b	暗褐色土	Ⅳ層主体　径１～２mm　FR・C少
掘り方	8	暗褐色土	Ⅳ層主体　径２～３mm　LB少
壁　際	9	暗黄褐色土	Ⅳ層とⅢb層主体　径１～２mm　LB・FR少
2住カマド	10	暗黄褐色土	Ⅳ層とⅢb層主体　径５～10mm　LB少　径２～３mm　FBやや少
２住SD２	11	明黄褐色土	Ⅳ層とⅢb層主体　ローム質　径５～10mm　LB多
	12	暗褐色土	Ⅳ層とⅢb層主体　径２～３mm　LR・FR・Cやや多
	13	暗褐色土	Ⅳ層とⅢb層主体　径１mm　FR・C少

斜面下方竪穴住居跡（第４図・Ａライン）

上　層	1	暗黒灰褐色土	Ⅲa層主体　径５～10mm　SLBやや少	きめやや粗　粘性やや弱　しまりやや弱
中　層	2a	暗黒褐色土	Ⅲa層主体　径５～10mm　HLB・SLBやや多	きめやや粗　粘性やや弱　しまりやや弱
	2b	暗黒褐色土	Ⅲa層主体　径10～20mm　SLBやや多　径１mm　FR少　２a層より黒色土多	きめやや粗　粘性やや弱　しまりやや弱
	2c	暗黒褐色土	２b層に類似するがSLB多	きめやや粗　粘性やや弱　しまりやや弱
下　層	3a	暗褐色土	Ⅲb層主体　径１～２mm　FR・Cやや少　径３～５mm　SLB微	きめやや細　粘性やや強　しまりやや強
	3b	暗褐色土	Ⅲa層とⅢb層の混合　径１mm　FRやや少	きめやや細　粘性やや強　しまりやや強
	3c	暗褐色土	３b層に類似するがⅢb層やや多	きめやや細　粘性やや強　しまりやや強
壁　際	4	明黄褐色土	Ⅳ層とⅢb層の混合　径１mm　FR・C微	きめやや細　粘性やや強　しまりやや強
貼床１	5a	明黄褐色土	Ⅳ層とⅢb層の混合　径１～２mm　FR少	きめやや細　粘性強　しまり強
	5b	明黄褐色土	５a層に類似するがⅢb層多	きめやや細　粘性強　しまり強
貼床２	6a	暗黒灰褐色土	Ⅲa層類似主体　径10～20mm　SLB少　径１mm　C・FRやや少	きめやや細　粘性強　しまり強
	6b	暗黒灰褐色土	６a層に類似するがきめやや粗い	きめやや細　粘性強　しまり強
貼床３	7	暗黄褐色土	Ⅳ層主体　Ⅲa層類似を混合	きめやや細　粘性強　しまり強
貼床４	8	明黄褐色土	Ⅳ層主体　径１～２mm　FR少	きめやや細　粘性強　しまり強
下　層	9	暗褐色土	Ⅲb層主体　径１～２mm　FR極多	きめやや細　粘性強　しまり強
下　層	10	暗黄褐色土	Ⅳ層主体	
カマド	11	暗赤褐色土	焼土・炭化物層が互層に堆積	
	12	暗黄褐色土	径２～３mm　FR少	
	13	暗黄褐色土	径２～３mm　FR多	
１住SD１	14	暗黄褐色土	Ⅲb層とⅣ層の混合　径１mm　FRやや多　径１mm　C少	
	15a	暗黄褐色土	Ⅲb層とⅣ層の混合　径１mm　FR少	
	15b	暗黄褐色土	Ⅲb層とⅣ層の混合　径10～20mm　HLB少	
周　溝	16	暗黄褐色土	Ⅲb層主体　径２mm　LR少　きめ粗い	

２号竪穴住居跡ベット状遺構（第７図・Ｂライン）

貼床面	1a	明黄褐色土	径１mm　FR・C微　暗褐色土をブロック状に含む
	1b	暗黄褐色土	径１mm　FR・C少　LB少
	1c	明黄褐色土	LB主体　径１mm　FR微
	1d	明黄褐色土	LB主体
壁　際	2	明黄褐色土	LBと暗褐色土の混合　しまり極弱
掘り方	3	暗黄褐色土	径１～２mm　FR・Cやや多　径１～２mm　白色粒子やや少
	4	暗褐色土	径１mm　C少
粘性：1a・1c・1d・2>3・1b>4　しまり：1a・1c・1d>1b>3・4>2　きめ：2>3・4>1b>1a・1c・1d			

２号竪穴住居跡SD2（第６図・ｃライン）

	1	暗黄褐色土	径５～10mm　LB多
	2a	暗褐色土	径２～３mm　LR・FR・Cやや多
	2b	暗褐色土	径３～５mm　FR微
	3a	暗褐色土	径１mm　FR・C少
	3b	暗褐色土	径10mm　LB少
粘性：1>2a・2b・3a・3b　しまり：1>2a・2b>3a・3b　きめ：2a・3b>3a>2b>1			

２号竪穴住居跡Pit1（第６図・ｄライン）

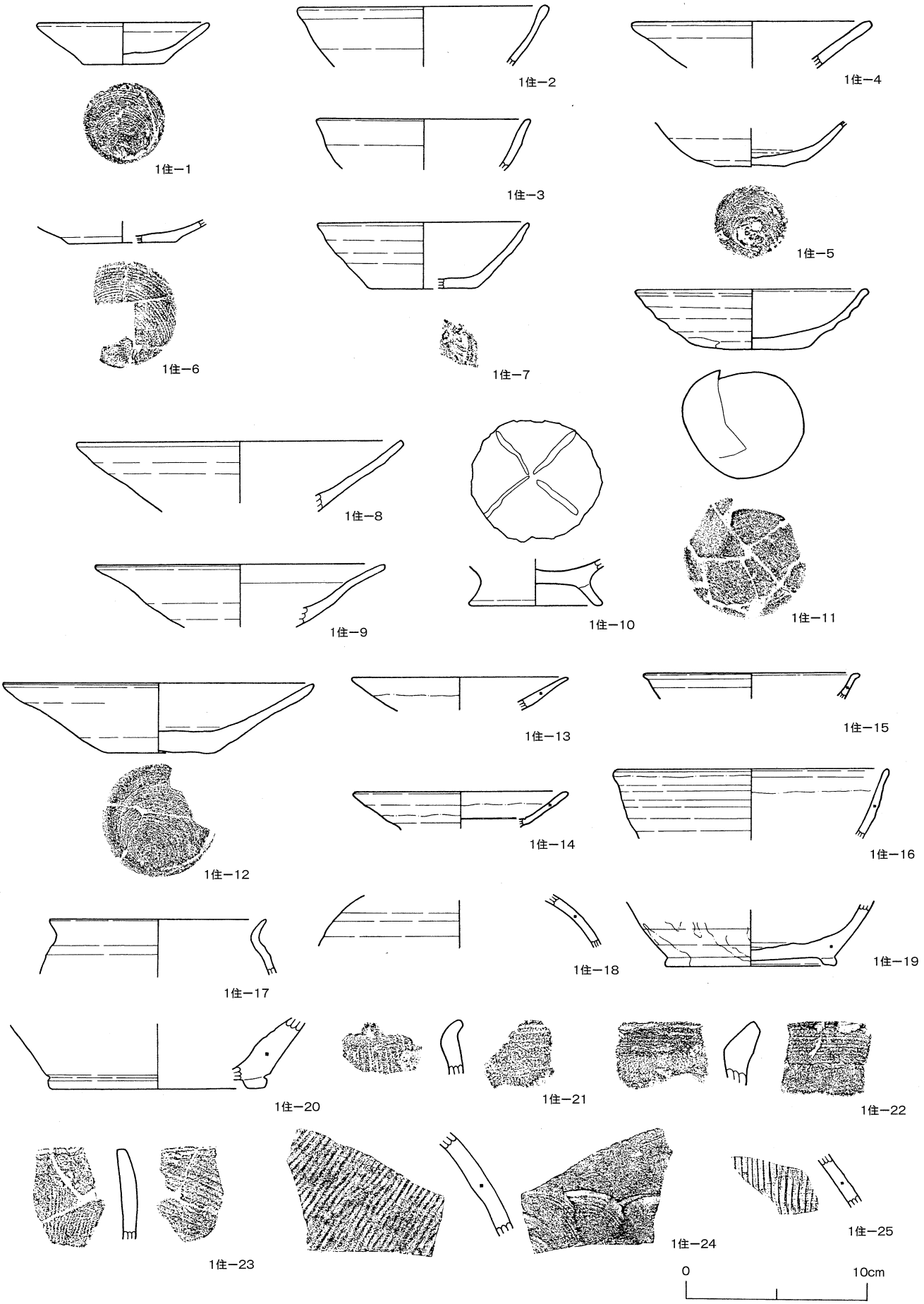
	1a	暗褐色土	径１mm　LR少
	1b	暗褐色土	径２～３mm　LB少　径１～２mm　C少
粘性：1b>1a　しまり：1b>1a　きめ：1a>1b			

２号竪穴住居跡SD1（第６図・ｂライン）

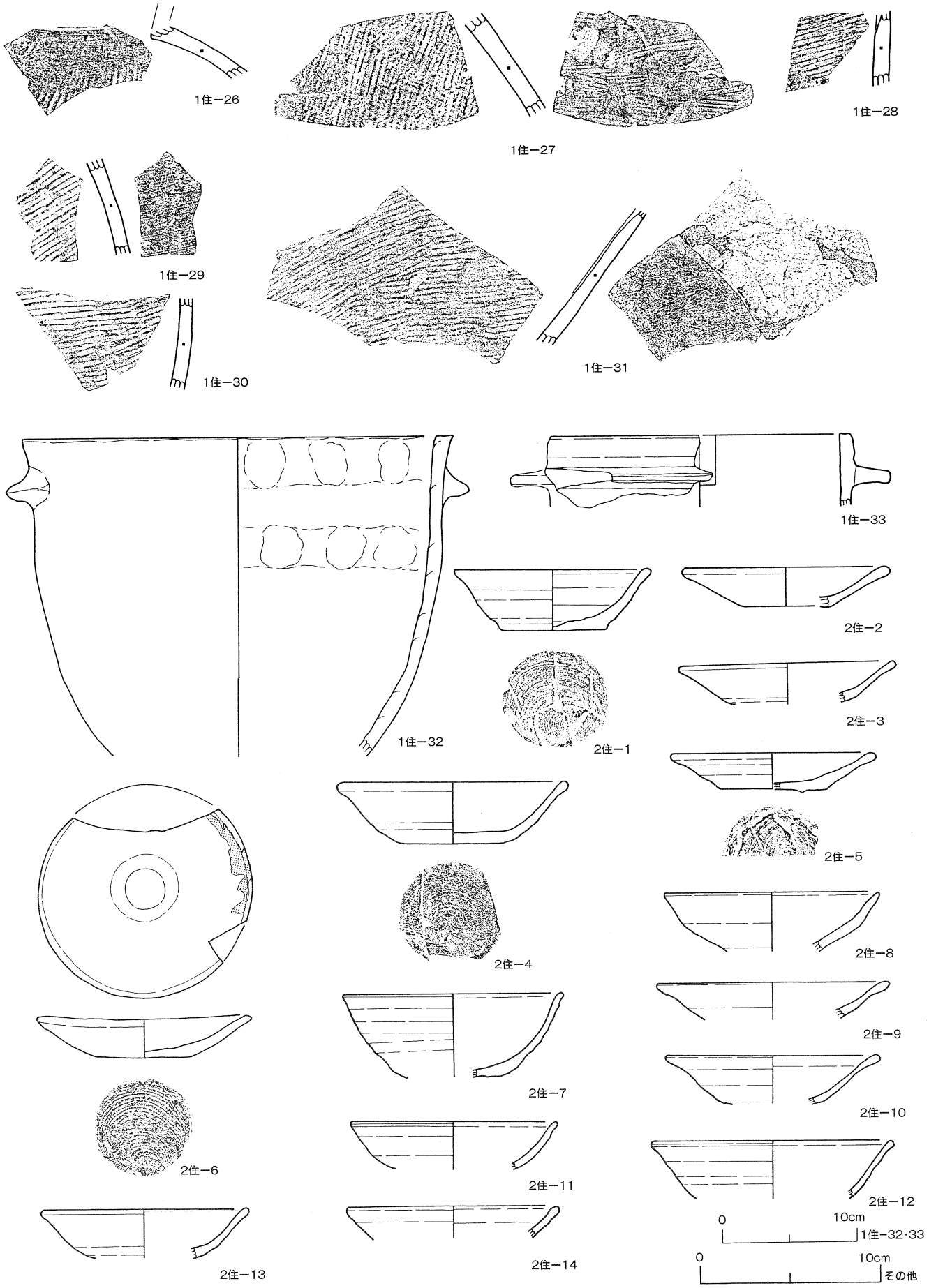
	1a	明黄褐色土	径５～10mm　LB多　径１～２mm　FR・Cやや少
	1b	暗黄褐色土	径５～10mm LBやや少　径１mm　C少
	2	暗黄褐色土	径２～３mm　LBやや少　径１mm　FR・C少
	3	暗黄褐色土	径２～５mm　LBやや少　径１mm　C少
粘性：1a>1b・3>2　しまり：1a>2・3>1b　きめ：2>3>1a・1b			

２号竪穴住居跡カマド

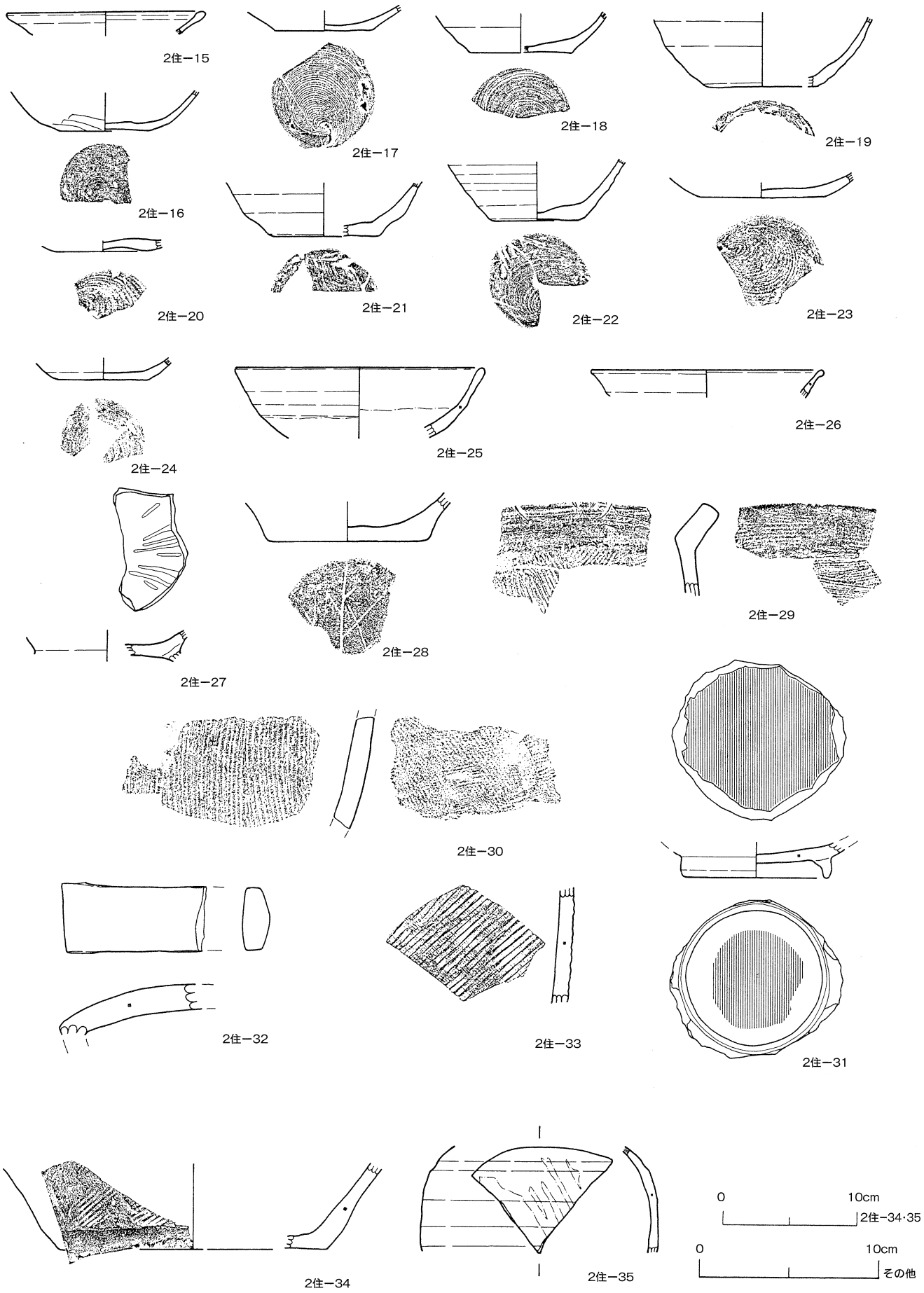
	1	白黄褐色土	径２～３mm　LR・FR多　φ1mmC少、灰白色土多



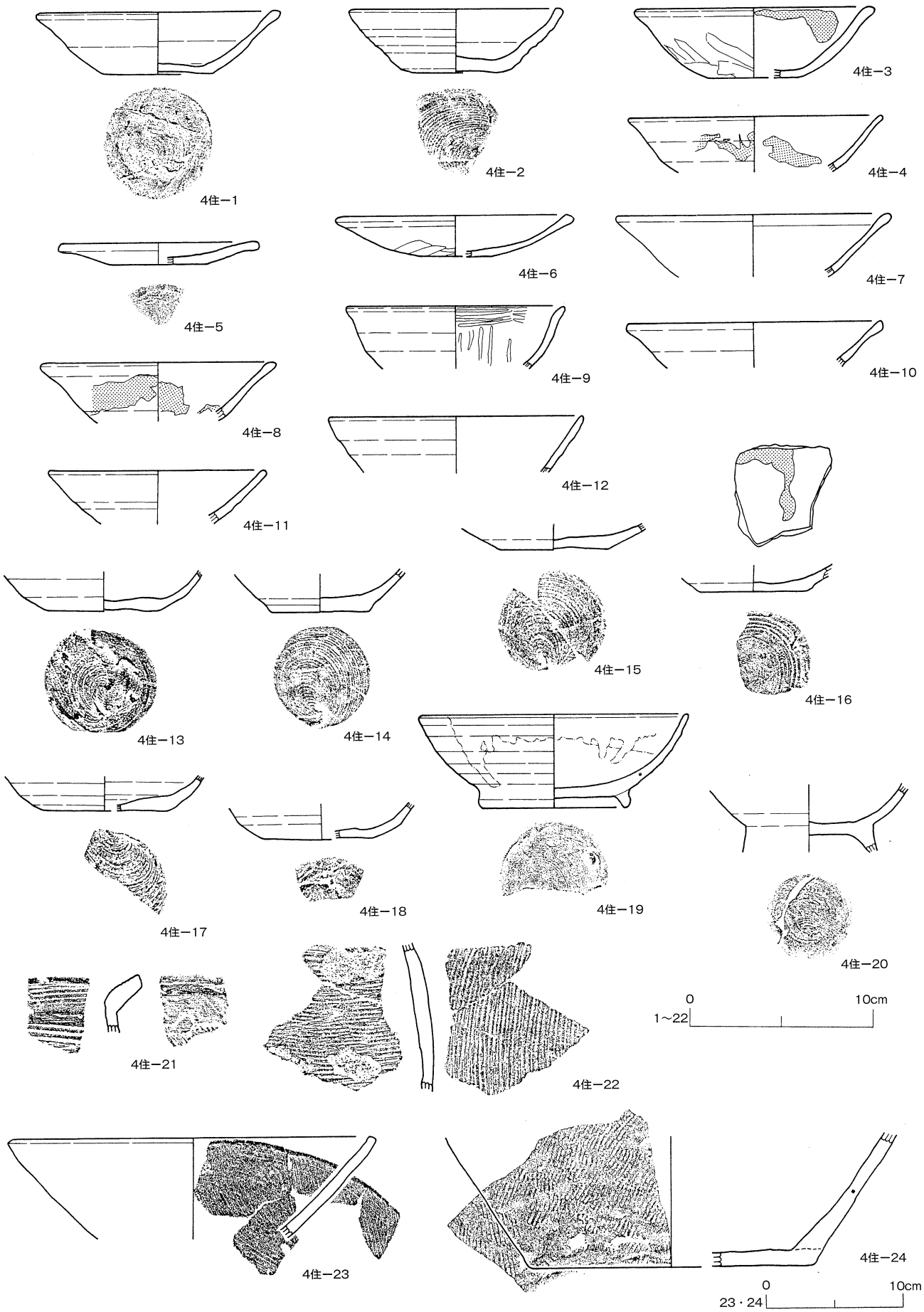
第８図　１号竪穴住居跡出土遺物（S＝１／３）



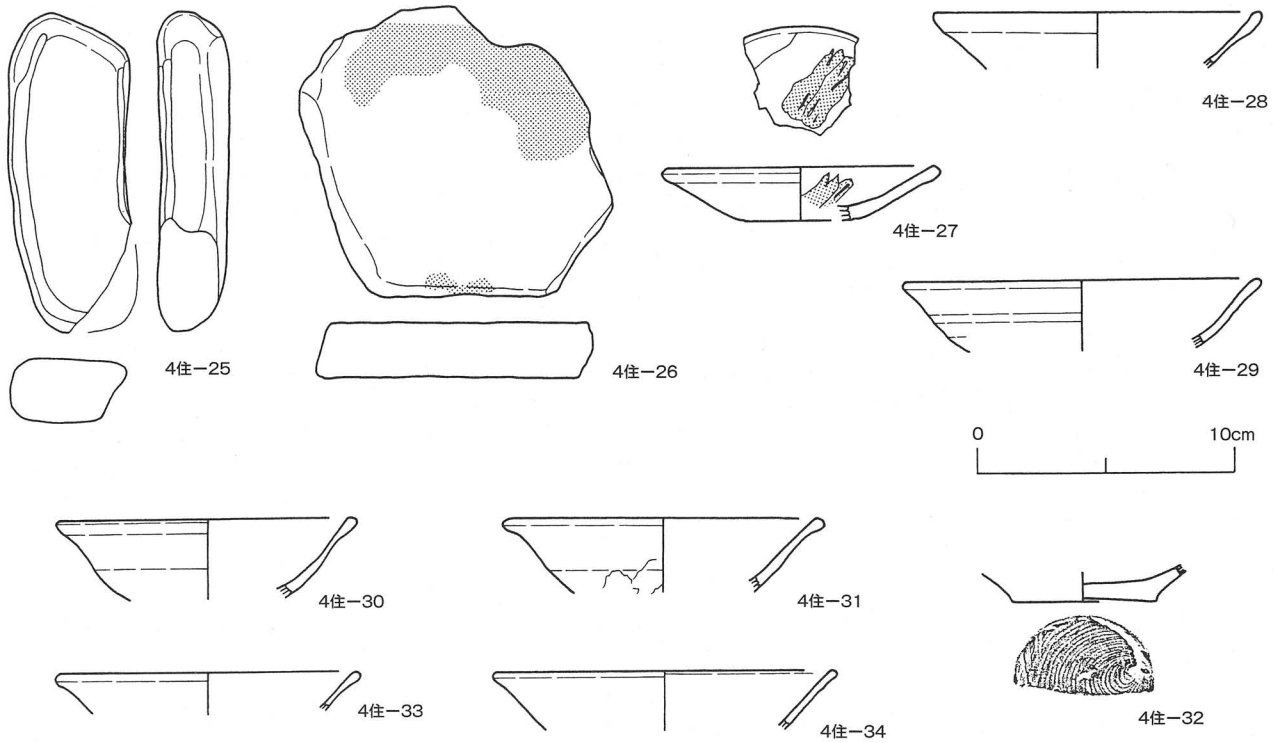
第９図　１・２号竪穴住居跡出土遺物（S＝１／３・１／４）



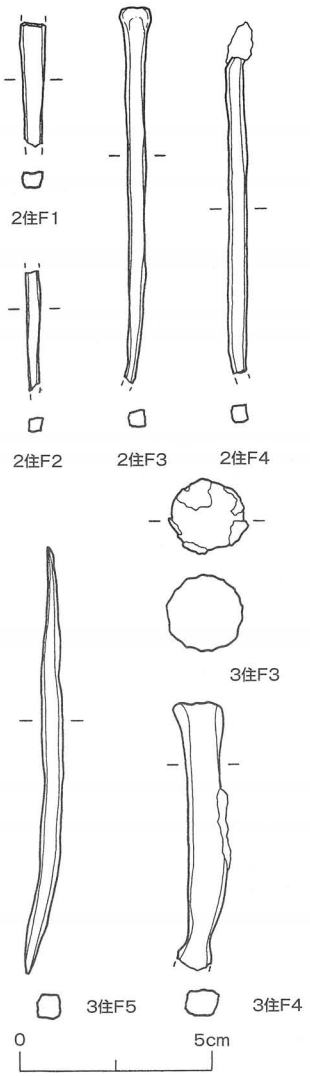
第10図　２号竪穴住居跡出土遺物（S＝1／3・1／4）



第11図　4号竪穴住居跡出土遺物（1）（S＝1／3・1／4）

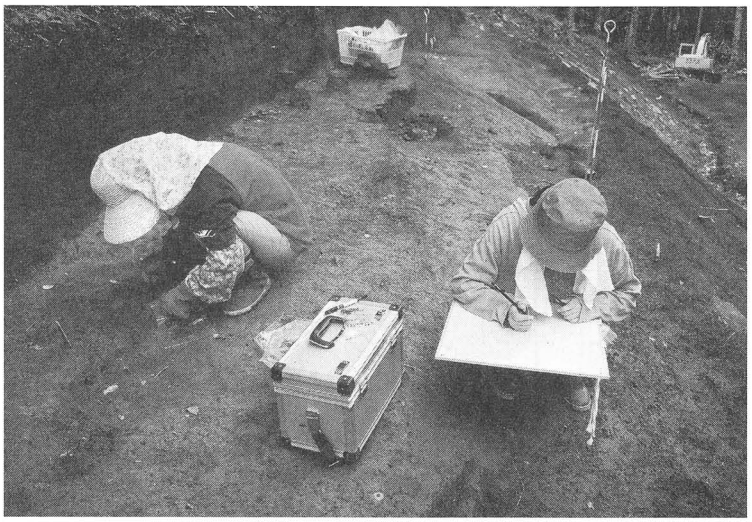


第12図　4号竪穴住居跡出土遺物（2）（S=1／3）



第13図　鉄製品（S＝1／2）

調査風景１



調査風景２

報告No.	注記No.	種類	器種	法量(cm)			色調		胎土	部位	特徴
				器高	口径	底径	内	外			
1住01	1住下周辺	土師器	坏	2.3	9.6	4.4	黒褐	にぶい黄褐	金・赤・黒粒子	口唇～底部	底部回転糸切
1住02	1住P21	土師器	坏	－	14.0	－	にぶい橙	にぶい橙	金・赤・黒粒子	口唇～胴部	
1住03	1住	土師器	坏	－	12.0	－	黒褐	橙	黒・白・赤粒子	口唇～胴部	口唇部直下ロクロ回転ナデにより屈曲
1住04	1住P23	土師器	坏	－	13.0	－	にぶい橙	にぶい橙	金・赤・黒・白粒子	口唇～胴部	
1住05	1住P12	土師器	坏	－	－	4.0	明赤褐	明赤褐	赤・黒粒子	底部～胴部	底部回転糸切
1住06	1住棚上	土師器	坏	－	－	6.0	明赤褐	明赤褐	赤・黒粒子	底部	底部回転糸切
1住07	1住下等	土師器	坏	3.7	11.8	6.0	にぶい橙	にぶい橙	白・黒・赤粒子	口唇～底部	底部回転糸切
1住08	1住P1	土師器	坏	－	17.8	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金・白・黒粒子	口唇～胴部	
1住09	1住P1	土師器	坏	－	15.8	－	黒	黒	金・白粒子	口唇～胴部	
1住10	1住P16	土師器	高台付坏	－	－	7.5	黒褐	にぶい橙	白・黒粒子	底部	内面に十字状の暗文
1住11	1住P22	土師器	坏	3.3	12.5	6.2	にぶい赤褐	にぶい赤褐	赤粒子	口唇～底部	底部回転糸切後一部ヘラ削り
1住12	1住P1	土師器	坏	3.9	17.0	5.8	黒褐	黒褐	金・白粒子	口唇～底部	底部外周はヘラ削り→ナデ調整
1住13	1住下	灰釉陶器	皿	－	12.0	－	灰黄	灰黄	黒・白粒子	口唇～胴部	
1住14	1住上	灰釉陶器	皿	－	12.0	－	灰黄	灰黄	黒・白粒子	口唇～胴部	
1住15	1住中	緑釉陶器	碗	－	12.0	－	オリーブ灰	オリーブ灰	白粒子	口唇部	
1住16	1住下	灰釉陶器	碗	－	15.4	－	灰黄	灰黄	白粒子	口唇～胴部	
1住17	1住P5	土師器	甕	－	12.0	－	にぶい橙	にぶい橙	白・黒粒子	口唇～胴部	
1住18	1住棚上	灰釉陶器	甕	－	－	－	灰黄	灰黄	黒・赤・白粒子	肩部	
1住19	1住P11	須恵器	壷	－	－	9.4	白灰	灰	白・黒・赤粒子	底部	回転ヘラ削り後畳付貼付
1住20	1住中P13	須恵器	甕	－	－	12.0	灰黄	灰黄	黒・白・赤粒子	底部	外面ロクロナデ
1住21	1住下	土師器	長胴甕	－	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	黒・白・赤粒子	口唇部	内面横ナデ　外面縦ハケ目　口唇部直下横ナデ
1住22	1住上	土師器	長胴甕	－	－	－	にぶい赤褐	にぶい褐	金・黒・赤・白粒子	口唇部	内面横ハケ目　外面横ナデ
1住23	1住床等	土師器	鉢	－	－	－	にぶい褐	灰黄褐	白・黒・金・赤粒子	口唇部	内面ハケ目　外面縦ハケ目
1住24	1住P30	須恵器	甕	－	－	－	灰	黄灰	白粒子	胴部	内面アテ具痕(青海波)　外面叩き目
1住25	1住棚Ⅰ	須恵器	甕	－	－	－	灰	黒褐	白粒子	胴部	内面ナデ　外面叩き目
1住26	1住	須恵器	甕	－	－	－	灰	灰	白粒子	肩部	内面横ナデ　外面横ナデ・叩き目
1住27	1住上	須恵器	甕	－	－	－	灰	暗青灰	白・赤粒子	胴部	内面アテ具痕→ナデ　外面叩き目・自然釉
1住28-31	1住P14等	須恵器	甕	－	－	－	にぶい橙	にぶい赤褐	白・黒粒子	胴部	内面ハケ目　外面叩き目
1住32	1住P8	土師器	羽釜	24.0	32.0	－	浅黄橙	浅黄橙	白・黒粒子	口唇～胴部	胴部上半は幅広の横ナデ、胴部下半は幅狭の縦・横ナデ、内面にアテ具状の円形整形痕
1住33	1住P2	土師器	羽釜	－	22.4	－	灰黄褐	灰黄褐	金・白・黒・赤粒子	口唇～胴部	内外面横ナデ
2住01	2住P2/3	土師器	坏	3.4	11.0	6.0	橙	橙	赤・黒・白粒子	口唇～底部	底部回転糸切
2住02	2住中	土師器	坏	2.2	11.6	5.0	橙	橙	黒・赤・白粒子	口唇～底部	
2住03	2住上	土師器	坏	－	11.7	－	にぶい橙	橙	赤・白・金粒子	口唇～胴部	
2住04	2住SD1P1	土師器	坏	3.5	13.0	6.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	赤・白・黒粒子	口唇～底部	底部回転糸切
2住05	2住中	土師器	坏	2.0	11.5	6.0	明赤褐	明赤褐	黒・白粒子	口唇～底部	底部回転糸切
2住06	2住SD1P1	土師器	坏	2.3	12.0	5.4	にぶい橙	にぶい橙	黒・赤・白・金粒子	口唇～底部	底部回転糸切　灯明皿
2住07	2住SD3P1等	土師器	高台付坏	－	12.1	－	黒	にぶい橙	白・黒・乳白粒子	口唇～底部	見込部ミガキ
2住08	2住下	土師器	坏	－	12.0	－	にぶい橙	にぶい橙	白・赤・黒粒子	口唇～胴部	胴部半ばで屈曲著しく変化
2住09	2住	土師器	坏	－	13.0	－	にぶい橙	にぶい橙	赤・黒・白粒子	口唇～胴部	
2住10	2住中	土師器	坏	－	12.0	(4.4)	明赤褐	明赤褐	黒・赤・白粒子	口唇～底部	
2住11	2住ｶﾏﾄﾞ	土師器	坏	－	11.4	－	橙	橙	白・赤・金粒子	口唇～胴部	
2住12	2住床直	土師器	坏	－	13.1	－	橙	橙	赤・白・金粒子	口唇～胴部	
2住13	2住中	土師器	坏	－	11.3	－	にぶい橙	にぶい橙	赤・白・黒光粒子	口唇～胴部	底部と胴部の境は丸みを帯びる(ナデか？)
2住14	2住上	土師器	坏	－	12.0	－	にぶい褐	にぶい褐	黒・赤・白粒子	口唇～胴部	口唇部直下内面に指ナデがやや深く入る
2住15	2住表	土師器	坏	－	11.0	－	橙	橙	赤・黒粒子	口唇～胴部	
2住16	2住	土師器	坏	－	－	4.8	にぶい黄橙	橙	赤・白・乳白・黒粒子	底部～胴部	底部回転糸切→ヘラ削り
2住17	2住中	土師器	坏	－	－	5.6	橙	橙	赤・白・金粒子	底部～胴部	底部回転糸切
2住18	2住上	土師器	坏	－	－	5.7	にぶい黄橙	橙	白・赤・金粒子	底部～胴部	底部回転糸切
2住19	2住中等	土師器	坏	－	－	6.1	橙	黒	赤・白・金粒子	底部～胴部	底部回転糸切
2住20	2住上	土師器	坏	－	－	5.0	明赤褐	明赤褐	白・乳白・黒粒子	底部	底部回転糸切　底部ややくぼむ
2住21	2住	土師器	坏	－	－	6.0	橙	橙	赤・白・金粒子	底部～胴部	底部回転糸切　底部と胴部の境は丸みを帯びる(ナデか？)
2住22	2住上	土師器	坏	－	－	5.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	白・赤・金粒子	底部～胴部	底部回転糸切り後ヘラ削り
2住23	2住中	土師器	坏	－	－	7.0	明赤褐	明赤褐	黒粒子	底部	底部回転糸切
2住24	2住上等	土師器	坏	－	－	5.0	にぶい橙	にぶい橙	黒・白粒子	底部	底部回転糸切　見込部炭化物付着(灯明皿？)
2住25	2住中	灰釉陶器	坏	－	14.0	－	黄褐	暗灰黄褐	乳白・白・黒粒子	口唇～胴部	付掛け
2住26	2住中	緑釉陶器	坏	－	13.0	－	灰オリーブ	灰オリーブ	白・黒粒子	口唇部	
2住27	2住下	土師器	高台付坏	－	－	－	黒褐	にぶい褐	白・黒・赤粒子	底部	見込み放射状暗文
2住28	2住下	土師器	甕	－	－	9.0	灰黄褐	灰褐	白・赤・黒粒子	底部	底部木葉痕
2住29	2住中等	土師器	長胴甕	－	－	－	にぶい赤褐	暗褐	黒・赤・金・白粒子	口唇部	口縁・内面横ハケ目　外面縦ハケ目
2住30	2住下	土師器	長胴甕	－	－	－	にぶい褐	にぶい赤褐	赤・黒・白・金粒子	胴部	内面格子状ハケ目　外面縦ハケ目
2住31	2住SD3P2	須恵器	壷	－	－	7.9	灰	灰	白・黒・金粒子	底部	見込・底部に刷痕(転用硯)

報告No.	注記No.	種類	器種	法量(cm)			色調		胎土	部位	特徴
				器高	口径	底径	内	外			
2住32	2住上	須恵器	平瓶	—	—	—	灰白	灰オリーブ	白・黒・赤粒子	把手	自然釉
2住33	2住中	須恵器	甕	—	—	—	灰	灰	白・赤・金粒子	胴部	内面ナデ　外面叩き目
2住34	2住P5	須恵器	甕	—	—	20.2	灰	灰	白・赤粒子	底部	内面横ナデ　外面ナデ→叩き目
2住35	2住P4	須恵器	壷	—	—	—	灰黄	灰黄	白・黒粒子	肩部	内面ナデ　外面自然釉
4住01	3住下	土師器	坏	3.4	13.4	6.0	橙	橙	赤・黒・白粒子	口唇～底部	底部回転糸切　底部ややくぼむ
4住02	3住P2	土師器	坏	3.6	11.8	6.2	赤褐	赤褐	黒・赤・白粒子	口唇～底部	底部回転糸切　底部やや厚い　底部から胴部の境は丸みを帯びる(ナデ)
4住03	3住P4	土師器	坏	3.8	12.2	5.0	にぶい褐	にぶい褐	赤・白・黒粒子	口唇～底部	底部～胴部下半ヘラ削り
4住04	3住上	土師器	坏	—	14.0	—	にぶい褐	にぶい橙	白・黒粒子	口唇～胴部	内外面炭化物付着(灯明皿？)
4住05	3住下	土師器	皿	1.2	11.0	5.4	にぶい橙	橙	黒・赤・白・金粒子	口唇～底部	底部回転糸切
4住06	3住中	土師器	坏	2.3	13.2	4.0	橙	橙	黒・赤・白粒子	口唇～胴部	胴部下半ヘラ削り
4住07	3住カマドP6等	土師器	坏	—	15.0	—	明赤褐	橙	黒・赤・白粒子	口唇～胴部	
4住08	3住	土師器	坏	—	13.6	—	黒褐	明赤褐	黒・赤粒子	口唇～胴部	内外面炭化物付着(灯明皿？)
4住09	3住中	土師器	坏	—	12.0	—	黒褐	にぶい黄橙	白・黒・赤粒子	口唇～胴部	内面下半縦暗文・上半横ミガキ
4住10	3住SD1	土師器	坏	—	14.0	—	にぶい橙	にぶい橙	赤・白・黒粒子	口唇～胴部	
4住11	3住	土師器	坏	—	12.0	—	橙	橙	赤・黒・白・金粒子	口唇～胴部	
4住12	3住	土師器	坏	—	14.0	—	明赤褐	明褐	金・白・赤粒子	口唇～胴部	
4住13	3住P1	土師器	坏	—	—	6.0	にぶい橙	にぶい橙	赤・黒・白粒子	底部～胴部	底部回転糸切　底部ややくぼむ　底部円周部ナデ
4住14	3住カマドP12	土師器	坏	—	—	5.4	橙	橙	赤・黒・白・金粒子	底部～胴部	底部回転糸切
4住15	3住カマドP15	土師器	坏	—	—	6.0	にぶい黄橙	にぶい橙	赤・黒・白粒子	底部～胴部	底部回転糸切　底部ややくぼむ
4住16	3住上	土師器	坏	—	—	6.0	にぶい橙	にぶい橙	赤・黒・白粒子	底部～胴部	底部回転糸切　内面炭化物付着(灯明皿？) 底部円周部ナデ
4住17	3住上	土師器	坏	—	—	6.8	橙	橙	黒・白・金粒子	底部～胴部	底部回転糸切
4住18	3住中	土師器	坏	—	—	6.0	にぶい黄褐	にぶい赤褐	黒・白・乳白粒子	底部～胴部	底部回転糸切　底部円周部ナデ
4住19	3住P3	灰釉陶器	碗	5.2	14.7	7.8	灰黄	灰黄	白・黒粒子	口唇～底部	回転糸切後畳付貼付
4住20	3住SD2等	土師器	高台付坏	—	—	—	にぶい黄褐	にぶい黄褐	黒・白・赤粒子	底部～胴部	底部回転糸切
4住21	3住下	土師器	長胴甕	—	—	—	褐	暗褐	白・赤・金粒子	口唇部	内面横ハケ目　外面斜めハケ目・口唇部直下ハケ目→横ナデ
4住22	3住P5	土師器	長胴甕	—	—	—	暗褐	赤褐	白・赤・金・黒粒子	胴部	内面横ハケ目　外面縦ハケ目
4住23	3住SD2等	土師器	鉢	—	26.2	—	赤褐	赤褐	白・金・赤粒子	口唇～胴部	内面口唇部直下ハケ目→横ナデ　外面ナデ
4住24	3住P11	須恵器	甕	—	—	20.8	灰	暗オリーブ灰	白・赤・黒粒子	底部～胴部	内面指ナデ　外面ナデ→叩き目　底部円周部摩滅
4住27	4住	土師器	皿	2.1	11.0	5.0	にぶい赤褐	橙	赤・黒・白・金粒子	口唇～底部	内面炭化物付着(灯明皿？)
4住28	4住SD1	土師器	坏	—	12.8	—	明赤褐	明赤褐	黒・白・赤粒子	口唇～胴部	
4住29	4住SD1	土師器	坏	—	14.0	—	橙	にぶい黄褐	赤・白・黒粒子	口唇～胴部	
4住30	7住	土師器	坏	—	11.3	—	にぶい黄橙	橙	赤・金・白粒子	口唇～胴部	
4住31	7住	土師器	坏	—	12.0	—	橙	橙	赤・白・金粒子	口唇～胴部	胴部下半ヘラ削り
4住32	7住	土師器	坏	—	—	5.5	橙	橙	白・赤粒子	底部	底部回転糸切
4住33	7住	土師器	坏	—	11.5	—	橙	明赤褐	赤・白粒子	口唇～胴部	
4住34	7住	土師器	坏	—	13.2	—	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金・赤・白粒子	口唇～胴部	内外面２次焼成により一部明赤褐色に変色

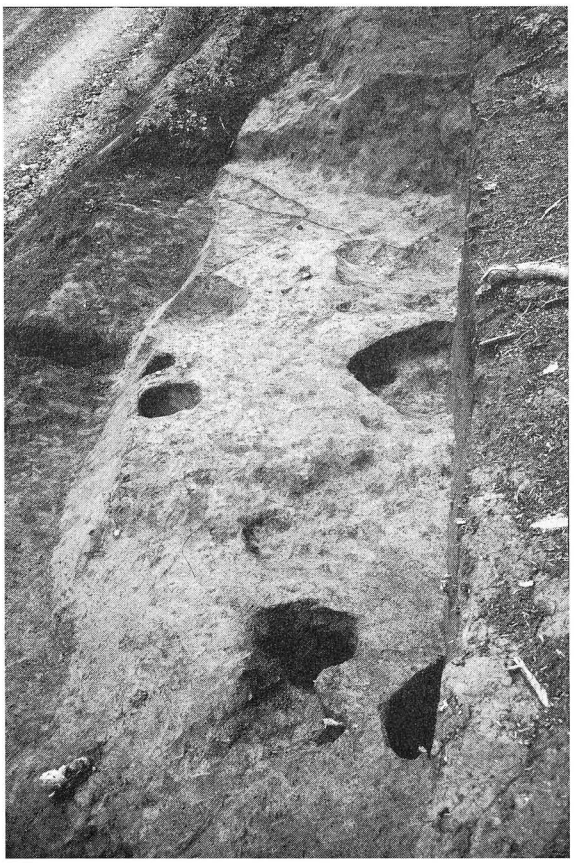
報告No.	注記No.	種類	器種	法量(cm・g)					備考
				縦	横	幅	重量		
4住25	3住Pit	礫	礫	12.5	4.8	2.8	240.5	砂岩	
4住26	3住Pit3S1	礫	礫	12.2	11.3	2.2	523.5		炭化物付着痕アリ

報告No.	注記No.	種類	器種	法量(cm・g)				備考
				縦	横	幅	重量	
2住F1	2住中F1	鉄製品	釘	—	0.4	0.4	(2.95)	欠損品
2住F2	2住中F2	鉄製品	釘	—	0.4	0.4	(1.22)	欠損品
2住F3	2住中F3	鉄製品	釘	—	0.4	0.4	(7.65)	先端部欠
2住F4	2住中F4	鉄製品	釘	—	0.5	0.5	(7.31)	先端部欠
3住F3	3住F3	鉄製品	不明	2.0	2.0	2.0	23.12	球状
3住F4	3住F4	鉄製品	不明	—	0.7	0.7	(20.24)	
3住F5	3住F5	鉄製品	不明	11.1	0.6	0.6	10.11	両端鋭角

写　真　図　版

調査区全景（西から）

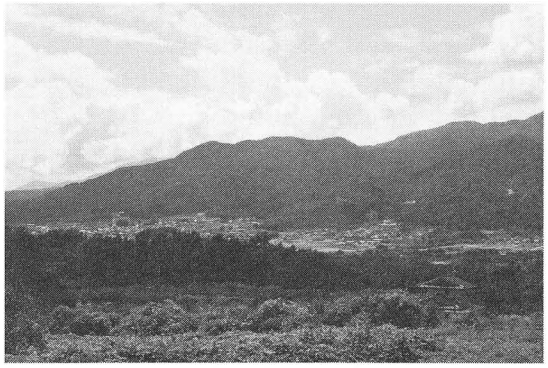
斜面下方竪穴住居跡遺物出土状況



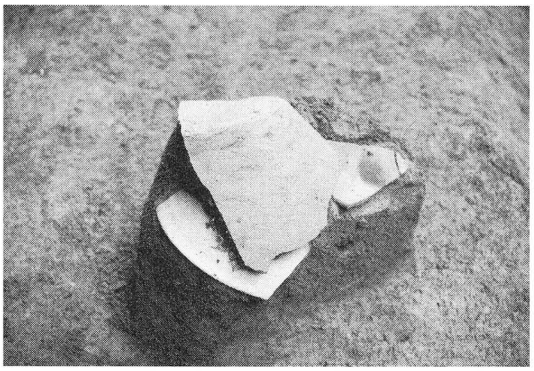
斜面上方竪穴住居跡完掘状況

斜面下方竪穴住居跡群土層断面（北から）

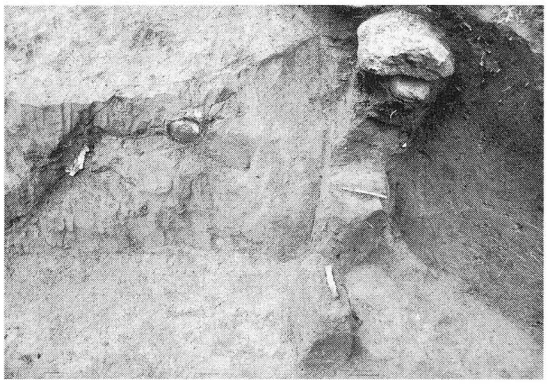
斜面上方竪穴住居跡群土層断面（北から）



苗敷山山頂遺跡遠景（七里岩から）



斜面下方竪穴住居跡遺物出土状況



２号竪穴住居跡鉄製品出土状況

（左）出土鉄製品

（下）４住出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なえしきさんさんちょういせき
書名	苗敷山山頂遺跡
副書名	林道開発に伴う緊急発掘調査報告書
編集者名	閏間俊明
編集機関	韮崎市教育委員会
発行機関	韮崎市教育委員会
住所	〒407-8501　山梨県韮崎市水神1-3-1
発行年月日	2003(平成15)年3月24日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
なえしきさんさんちょういせき	にらさきしあさひちょうかみじょうみなみわりあざみつぎやま	19207	K-45	35°40′16″	138°25′12″	2001年7月12日～2001年8月27日	42m²	林道開発
苗敷山山頂遺跡	韮崎市旭町上条南割字三次山							

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	平安時代	竪穴住居跡	土師器・須恵器・鉄製品	
寺社跡	平安～近世		18世紀代陶磁器	

苗敷山山頂遺跡

発行日　平成15(2003)年3月24日

発行　韮崎市教育委員会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神1－3－1
TEL 0551-22-1111(内224)

印刷　有限会社 タクト